

トルコとの経済関係強化

アゼルバイジャンとトルコは地理的、民族的に非常に近く、「一つの民族、二つの国家」と形容されるように両国は政治的にも特別な関係にあります。経済関係も例外ではありません。

従来トルコはアゼルバイジャンを起点とする原油及び天然ガスパイプラインの通過国としてアゼルバイジャン経済にとって大きな役割を果たしており、昨年末の「南ガス回廊」の全区間開通に伴う欧州へのアゼルバイジャン産天然ガスの輸出開始によって、トルコのエネルギー・ハブとしてのプレゼンスは更に増えています。またトルコはアゼルバイジャンの貿易相手国として常に上位(注:2019 年の貿易高で2位、1 位は原油輸出先のイタリア、3 位はロシア)を占め、対アゼルバイジャンの累計直接投資額においては、英国、米国に次ぎ 3 位に位置しています。最近では、バクー・トビリシ・カルス(BTK)鉄道を利用した中国方面等への貨物輸送の本格化もあり、今後二国間の貨物輸送が増々活発となることが予測されます。

上述の通り、トルコはアゼルバイジャンにとって最も重要な経済パートナーの一つであり、今後も多分野での経済関係強化が見込まれますが、昨年 9 月から 11 月に発生した対アルメニア戦争の停戦合意後に解放地域(カラバフ地域)で進められている復興事業においても、トルコの強いプレゼンスや優位性が見られます。具体的には、同地域における建設事業へのトルコ企業の積極的な関与や、トルコとナヒチェヴァン(アルメニアを経てトルコと一部国境を接するアゼルバイジャンの飛び地)との間の天然ガスパイプラインに係る両国政府間の覚書の締結や、同区間での鉄道の建設計画の進展等といった動きが挙げられます。

解放地域における二国間の経済協力強化については、今回の戦争において一貫して政治的及び軍事的な支援を寄せてくれたトルコに対し、アゼルバイジャンが新たな投資やアゼルバイジャン市場におけるプレゼンス拡大の機会を提供することを、トルコとアゼルバイジャンが当然視していても驚くことではありません。

現在のところトルコと比較すると目立った動きはありませんが、今後ロシアやイラン等の周辺国がいかにアゼルバイジャン政府に関与していくかが注目されます。

(以上)